

令和3年度 教育方法改善のための 自己点検・評価（授業評価等）実施状況調査票

1. 学生による授業評価

(1) 実施状況

別紙1「令和3年度 授業評価実施状況一覧」のとおり

(2) 実施組織

学部等	大学側（学生側）
大学教育・ 学生支援機構	大学教育学生支援機構 大学教育センター学部教務委員会 教養教育部会
共同教育学部 教育学研究科	共同教育学部教務委員会
情報学部	情報学部教務委員会
社会情報学部 社会情報学研究科	社会情報学部教務委員会 社会情報学研究科学務委員会
医学部 医学科	医学科教務部会
医学部 保健学科	保健学科教育課程専門委員会
医学系研究科	医科学専攻教務委員会 生命医科学専攻教務委員会
保健学研究科	保健学研究科教務委員会
理工学部 理工学府	理工学部教務委員会 理工学府教務委員会

(3) 実施方法

学部等	実施方法
大学教育・ 学生支援機構	必修科目である「学びのリテラシー（1）（2）」と「データ・サイエンス」について、大学教育センター学部教務委員会教養教育部会において、設問項目を審議のうえ実施を決定し、教務システムのアンケート機能を利用してWEBアンケートを実施した。
共同教育学部 教育学研究科	WEBを利用してアンケートを実施した。 なお、実験、実技、実習など講義以外の授業のうち、このアンケートによる評価になじまないと判断した場合には、教員が「授業改善報告書」を作成して教務係に提出する方式をとった。
情報学部	教務システムのアンケート機能を使用したWEBアンケート
社会情報学部 社会情報学研究科	教務システムのアンケート機能を使用したWEBアンケート
医学部 医学科	4年次～6年次の臨床実習（必修）（選択）において、診療科ごとの実習評価を実施した。アンケート用エクセルシートをLMSにて配付・回収した。LMSを使用するため、管理者は回答者を同定できるが、結果は集計後データのみであり、個人が特定されないよう配慮している。
医学部 保健学科	平成26年度までは、授業担当教員を通じて紙媒体で授業評価アンケートを

	実施していたが、平成 27 年度からは、教務システムのアンケート機能を活用したWEBによるオンラインシステムで授業評価アンケートを実施している。対象となる授業科目は、保健学科全ての専門教育科目である。
医学系研究科	教務システムのアンケート機能を活用し、医科学専攻の基礎連続講義及び医学基礎技術実習の履修者並びに生命医科学専攻の基礎科目の履修者を対象にアンケートを行った。
保健学研究科	授業実施中に、教員が学生にWEBアンケートへの回答を依頼した。
理工学部 理工学府	教務システムのアンケート機能により、理工学府専任教員が担当する理工学府・理工学部の全科目を対象として、中間調査（意見任意）及び最終調査を実施した。

(4) アンケート結果に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
大学教育・ 学生支援機構	【実施概要】 教養教育科目は、令和 2 年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインを中心とした授業実施となったが、ほぼすべての項目において、肯定的な回答が 7 割～8 割を占めており、前年度と比較しても、大きな変化はなかった。オンラインを利用した授業について、肯定的な回答が 9 割程度となっており、学生に肯定的に受け止められていることがわかった。
	【課題】 特になし
	【具体的な改善事例】 令和 4 年度から、「英語」の再履修クラスのオンライン化と、これまで後期に開講していた「データ・サイエンス」のオンデマンド化を決定した。このことにより、再履修となった場合に、専門科目との履修調整がしやすくなり、学生の利便性が向上すると見込まれる。
共同教育学部 教育学研究科	【実施概要】 ① 学部学生の授業満足度では、9 割以上の学生が肯定的な評価をしている。（「満足している」「どちらかという満足している。」）また、大学院学生の総合評価では、9 割以上の学生が「優れている」「やや優れている」と、肯定的な評価をしている。 ② アクティブラーニング型授業の導入率は約 7 割であり、それらの科目のうち「問題解決能力が身についた」と学生が回答した科目数は約 5 割であった。
	【課題】 ① 学部の授業において、全体の 1 割に満たない割合ではあるが、「授業の進め方」「説明内容の分かりやすさ」において、改善すべきとの評価をしている学生がいる。 ② 学部及び大学院の授業において、全体の 1 割に満たない割合ではあるが、「課題の量」が多いという評価をしている学生がいる。 ③ 大学院の授業において、コロナ対策により、実習先訪問を控えたり、オンライン授業に切り替えたりするなどの対応をとった授業が多く見られた。

	<p>【具体的な改善事例】</p> <p>① 教員側の意図が伝わっていないことがあったようなので、口頭での説明に加え、資料中に注意事項等を明記するようにした。</p> <p>② 質問に答える時間が長くなり予定の内容を終えられないとの指摘があったため、授業時の質問を精選するようにした。</p> <p>③ 課題の量が多くなりがちであったため、学生の反応を勘案して調整した。</p> <p>④ 大学院において、コロナ対策については今後の状況を見守ることになるが、オンラインでの指導や打ち合わせについては、今後も効率よく導入していきたいと考えている。</p>
情報学部	<p>【実施概要】</p> <p>情報学部は令和3年度に新設された学部であり、前年度実績はない。アンケート対象は1年次生のみであり、回答率は前期約90%、後期約77%となった。</p> <p>また、「この授業を四段階で評価してください」との項目では、前期・後期ともに9割以上の学生が「優れている」又は「やや優れている」と回答しており、総じて高い評価であった。</p> <p>なお、実施に当たっては、回答率を上げるため、教務係から複数回にわたり回答を呼びかけるメッセージを教務システムから送信した。</p> <p>【課題】</p> <p>後期時の回答率向上</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策として、多くの授業がオンラインになったことにより、実施に当たっては教務システムで周知を行った。今後は掲示でも周知する。</p> <p>併せて、回答期限を1か月程前倒しし、早期の回答に繋がるようにする（回答期限後に開講する集中講義については、別途対応）。必修科目の授業において教員から口頭で回答を促すことや、授業終了時に5-10分程度の回答時間を設けることを検討している。</p> <p>また、回答の督促には、メールなどを含め複数の方法を使用する。</p> <p>なお、教授会でアンケート結果について教員に周知し、各々の授業改善の参考とした。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【実施概要】</p> <p>令和3年度より情報学部が新設され、社会情報学部は学生募集を停止したため、今年度よりアンケート対象が3学年（2～4年生）となっている。回答率は前期約44%、後期約27%となった。</p> <p>平成29年度よりWEBアンケートに切り替え、回答率の低下が問題になっているため、昨年度からアンケートへの回答を呼びかけるメッセージを、複数回にわたって教務システムより送信している。</p> <p>なお、この授業を4段階で評価してくださいとの項目で、社会情報学部は前後期ともに約92%以上の学生が「優れている」「やや優れている」と回答しており、授業については総じて高い評価であった。</p> <p>また、授業内容は興味が持てるものでしたかとの項目で、社会情報学研究科では前後期ともに75%以上の大学院生が肯定的な回答をしている。</p> <p>【課題】</p> <p>回答率の向上</p> <p>【具体的な改善事例】</p>

	<p>例年は掲示、教務システム、授業内でのアナウンス等で学生へ周知し回答を促していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、多くの授業がオンラインになったことにより、掲示によるアナウンスを教務システムのお知らせに変更した。今後は掲示でも周知する。</p> <p>併せて、回答期限を1か月程前倒しし、早期の回答に繋がるようにする（回答期限後に開講する集中講義については、別途対応）。必修科目の授業において教員から口頭で回答を促すことや、授業終了時に5～10分程度の回答時間を設けることを検討している。</p>
<p>医学部 医学科</p>	<p>【実施概要】</p> <p>令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のために病棟における実習内容の制限やオンラインでの代替実習を実施せざるを得ない期間があった。このため、十分な実習が行えず残念であったという意見がみられたが、各種制限下においてもできる限りの指導を行ったことについて各診療科へ感謝の言葉もみられた。実習制限や代替実習を実施せざるを得なかったが、いずれの診療科も可能な限り状況に対応していることが示された。</p> <p>【課題】</p> <p>昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大下において、実習制限やオンライン代替実習への変更を余儀なくされたことに伴い、患者さんに接する機会や技能を修得する機会の減少が課題としてあがった。</p> <p>アンケート結果について、各診療科で、各期に集計を行っているが、全期を通しての集計を実施していない。また、全診療科を統合した集計も実施していないため、自由記述を中心とした分析となっている。これらの集計を実施し、より詳細に結果を分析することが来年度以降の課題である。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>オンライン代替実習による技能習得機会の減少を保障するために、シミュレーション教育の充実を図ることとした。令和3年度には文部科学省補助金（感染症医療人材養成事業）を獲得し、教育用シミュレータを各種整備することができた。令和4年度には臨床実習（必修）（選択）だけでなく臨床実習前の技能教育から積極的にシミュレーション教育を実施できる見込みである。</p>
<p>医学部 保健学科</p>	<p>【実施概要】</p> <p>令和3年度後期の回答率は52.9%となり、昨年度から15%弱回答率が低下した。</p> <p>アンケート結果について、「この授業に対する総合評価をしてください」との問いに対しては、優れているが占める率は69.5%との結果になっており、概ね高い評価を得た。</p> <p>【課題】</p> <p>昨年度と比較すると回答率が低下したため、回答率向上の取り組みが必要になると考える。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>保健学教育FDにおいて、教員に対してアンケート調査を実施しており、教員はアンケートに回答することにより、授業評価アンケート結果を教務システムから閲覧できること、授業評価アンケート全体の結果を公開していることを認識し、更なる授業の改善に努めている。</p> <p>また、アンケート回答率の改善に関しては、引き続き各授業担当教員からも授業時に口頭で周知するなどにより、保健学科全体として向上に努める。</p>

<p>医学系研究科</p>	<p>【実施概要】 授業の全体的な評価は、前期は「非常に良い」が 56.4%、「良い」が 43.6%、後期は「非常に良い」が 69.1%、「良い」が 27.2%となっており、9割以上が肯定的な意見となっている。</p> <p>【課題】 授業の内容についての不満はほとんど見られなかったが、自由記述の回答が多くなかった。</p> <p>【具体的な改善事例】 自由記述の回答率を増加させるため、回答依頼の際に自由記述の回答を呼びかける。</p>
<p>保健学研究科</p>	<p>【実施概要】 非常に積極的、またはやや積極的に授業に取り組んだという回答が約 97% (29人中 28人)、また、授業に興味を持てたか、の問いに 5段階評価で 4以上の回答が約 93% (29人中 27人)と概ね肯定的であった。昨年同様自由形式の回答に意見を記入してもらうよう依頼したが、昨年より回答数が少なくなってしまった。</p> <p>【課題】 授業の内容についての不満はほとんど見られなかったが、自由記述の回答数が少なかったことにより、学生からの意見や要望があまり収集できなかった。また、履修者全員の回答が得られなかった。</p> <p>【具体的な改善事例】 回答数を増やすため、授業内で教員から呼びかけてもらうほか、事務からも教務システムやメール等で回答を呼びかける。 昨年の課題であった授業形式(対面・オンライン)について、社会人学生からはオンラインを望む声もあったが、対面授業にも利点があることや一般学生のことを考慮するなどし、「対面とオンラインを交互に行う」「対面授業の日に体調不良や職場からの制限により来校できない学生にはオンラインを許可する」など、対面授業を取り入れつつ、臨機応変に対応することとした。</p>
<p>理工学部 理工学府</p>	<p>【実施概要】 前年度からの変更点はなく、本アンケート結果に関する学生と教員との懇談会を学科単位で開催し、意見交換を実施、それらを踏まえて学科内での点検を行った。 アンケート結果について、授業のシラバスを予習・復習などに活用したかの設問では、多くのカテゴリでシラバスをほとんど見なかったとの回答が 50%を超えた。</p> <p>【課題】 アンケート結果からシラバスを見ていない学生が半数を超えているため、シラバスの役割と重要性を学生に周知する必要がある。</p> <p>【具体的な改善事例】 教務委員会等を通じて授業担当教員が学生にシラバスを確認するよう、指導の協力を求める。</p>

2. 学生との懇談会

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	大学側参加者数	学生側参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	学長と学生との懇談会	R3. 11. 9	7名	9名	・オンライン授業について ・教養教育について
共同教育学部 教育学研究科	学部長との懇談会	R4. 1. 26	10名	15名	学習環境、授業内容等
	院生との懇談会 (教職リーダーコース)	R3. 6. 30	4名	4名 (M1のみ)	課題研究、実習、 大学生生活全般
	院生との懇談会 (特別支援教育実践開発コース)	R3. 12. 3	2名	7名 (M1及びM2)	課題研究、実習、 大学生生活全般
情報学部	学生と学部長との懇談会	R3. 10. 27	12名	15名	学部長と学部学生との懇談
社会情報学部 社会情報学研究科	学生と学部長との懇談会	R3. 10. 27	12名	28名	学部長と学部学生との懇談
	学生と研究科長との懇談会	R4. 1. 21	4名	8名	研究科長と大学院生との懇談
医学部 医学科	該当なし				
医学部 保健学科	群馬大学医学部保健学科学友会との懇談会	R4. 1. 26	31名	15名	教員や事務部職員等と学生が授業内容、本学の設備等について意見交換
医学系研究科	該当なし				
保健学研究科	保健学研究科懇談会	R4. 2. 17	6名	11名	入試制度やカリキュラム等
理工学部 理工学府	授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会（化学・生物化学科2年生）	2年 R3. 11. 1	教員20名	167名	前期アンケート実施科目全ての集計結果に対する教員からの回答について、授業担当教員が説明し、教員と学生間で意見交換を行った。
		3年 R3. 11. 4	教員20名	179名	
	授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会（機械知能システム理工学科2年生）	R3. 12. 7	教員4名	83名	授業アンケート結果のフィードバック及び学生と教員との意見交換
	授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会（機械知能システム理工学科3年生）	R3. 12. 20	教員7名	99名	授業アンケート結果のフィードバック及び学生と教員との意見交換

	授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会（環境創生理工科・環境エネルギーコース2年生）	R3.10.1	教員3名	60名	授業アンケート結果に対する教員コメント紹介及び教員と学生とのカリキュラムに関する意見交換
	授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会（環境創生理工学科・環境エネルギーコース3年生）	R3.9.27	教員2名	43名	授業アンケート結果に対する教員コメント紹介及び教員と学生とのカリキュラムに関する意見交換
	授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会（環境創生理工学科・社会基盤防災コース）	R3.11.19	教員3名	8名	授業及び学生生活（特にコロナ禍での）に関する学生と教員との意見交換
	授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会（電子情報理工科学科・電気電子コース2～4年生）	R3.11.25	教員2名	6名	授業アンケート結果に対する教員からのコメント紹介及び教員と学生との意見交換
	授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会（電子情報理工科学科・情報科学コース）	R3.10.29	教員2名	7名	授業改善アンケート結果の紹介及び学生との意見交換
R3.11.16		教員2名	34名		
R3.11.18		教員2名	23名		
	理工学府長と学生との懇談会	R3.12.22	教員5名	14名	オンライン授業・進学・教育に関する学生の意見聴取を主とした、理工学府長と学生との懇談

(2) 懇談会での意見に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・学生支援機構	【実施概要】 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前年度同様の人数で対面により実施した。また、内容についても前年度同様とし、オンライン授業に関する事項を中心に意見交換を行った
	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・大学でオンライン授業を受講する際に、パソコンを充電できる場所が少ない。 ・Wi-Fiが不安定な教室がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・語学の授業では対面を希望する学生がいる。 ・英語オンライン教材（アルクネットアカデミー）の充実に対する要望 ・大学の方針や決定された大事な連絡が遅い
共同教育学部 教育学研究科	<p>【具体的な改善事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン充電ロッカー（60台分）を設置した。 ・大教室のWi-Fi環境の改善を図った。 ・英語オンライン教材の見直し（より機能の優れた機種への変更）を行う議論を進めている。 <p>【実施概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学部においては、オンラインで開催し、カリキュラム、遠隔授業、設備等について要望があった。 ② 大学院においては、授業、課題研究、実習、課題研究支援金等、学生生活全般について院生と意見交換を行った。また、授業実践開発コースでは、院生同士がオンラインミーティングを開催しており、そこに教員が加わり、意見交換をした。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学部においては、遠隔授業の機器操作に時間を要すことや遠隔機器の接続不良について改善等を求める意見があった。 ② 大学院においては、3コース間での情報共有や年間のスケジュールを分かりやすく示して欲しいなどの意見があった。 <p>【具体的な改善事例】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学部において、遠隔授業の機器操作に時間を要すことについては、教務委員会DX部会において機器操作マニュアルの見直しを行うとともに、教員や学生補助員に講習会を実施し対応している。また機器不良については、業者と連携を図りながら随時改善している。 ② 大学院の教務関係事項に対し、研究科教務委員会を設置し、コース間での授業内容やスケジュール等についての情報共有を行うこととした。また、学生生活やストレートマスターの受験対策については、研究科学生支援委員会を設置し対応することとした。
情報学部	<p>【実施概要】</p> <p>情報学部は令和3年度に新設された学部であり、前年度実績はない。1年生のみとなるため対象学生数が少ないことから、社会情報学部と合同で開催した。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインで開催し、学内にいる学生のため、懇談会用の教室を準備した。</p> <p>開催に当たっては、掲示、教務システムでの周知、担当学生からの声掛けを行った。併せて、スポーツ大会の中止により役割がなくなった学生連絡員に参加を呼びかけた。</p> <p>【課題】</p> <p>自発的に参加してくれる学生の人数を増やす。 学生との意見交換内容は別紙報告書のとおり。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>もっと早い時期から学生へ周知を行う。（令和3年度は9月16日に周知） 学生からの意見・要望への対応は別紙報告書のとおり。</p>

<p>社会情報学部 社会情報学研究科</p>	<p>【実施概要】 情報学部が1年生のみで対象学生数が少ないことから社会情報学部と共同で開催することとなった。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインで開催し、学内にいる学生のため、懇談会用の教室を準備した。 例年、学生の参加者が少ないため、事前に掲示、教務システムでの周知、担当学生からの声掛けを行っていたが、参加人数が増えないため、今年度はスポーツ大会の中止により役割がなくなった学生連絡員に参加を呼びかけたところ、昨年度より多くの学生が参加した。 なお、社会情報学研究科については、そもそもの在学生数が少なく、かつ社会人学生が多いことから、周知にはメールを使用している。</p> <p>【課題】 自発的に参加してくれる学生の人数を増やす。 学生との意見交換内容は別紙報告書のとおり。</p> <p>【具体的な改善事例】 もっと早い時期から学生へ周知を行う。(令和3年度は9月16日に周知) 学生からの意見・要望への対応は別紙報告書のとおり。</p>
<p>医学部 保健学科</p>	<p>【実施概要】 授業内容や、教室等の設備の状況や教務システム等について、教職員と学生で意見交換を行った。学友会が実施したアンケートによると、現在のカリキュラムについて、肯定的な意見が379件に対し、否定的な意見が28件であったことから、学生からは概ね肯定的な評価を得た。 また、オンライン授業については、スライドが見やすい、通学にかかるストレスが無い等のメリットがある一方、授業内容を頭に入れることが難しい、集中力が続かない等のデメリットが浮かび上がった。</p> <p>【課題】 オンライン授業だと、学生の通信環境等により、学びに影響が出ることが想定されることから、コロナ禍の中、学生との対話をどう行っていくかが課題である。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 新型コロナの影響は残るものの、可能な限り対面での講義・実習等を行うこととし、状況により同時にオンラインでの配信を行うハイブリッド形式とすることにより、学生の学びの場が公平に保てるような体制を取った。</p>
<p>保健学研究科</p>	<p>【実施概要】 保健学研究科では初めての開催となり、試験的にオンラインにて実施した。各領域、各学年、留学生、社会人学生など様々な立場の学生に参加を依頼し、意見を出してもらった。</p> <p>【課題】 カリキュラムには特に不満はないとの回答が多かった。社会人が大学院を目指す際に、職場の理解が得られるかが大きな課題となるため、病院や施設への広報や管理職の方への働きかけを行ってほしいとの意見が複数あった。</p> <p>【具体的な改善事例】 新入生オリエンテーション時に大学院説明会のポスターを配布し、職場へ掲示してもらうよう依頼した。管理職への働きかけについては今後検討</p>

	<p>していく。</p>
<p>理工学部 理工学府</p>	<p>【実施概要】 (理工学府長と学生との懇談会) 前はオンラインで実施したが、今回は学府長が学生と対面し、懇談会を行った。 懇談事項（テーマ）に沿って、オンライン授業、進学、教育について、良かった点、問題点を学生から意見を聴取し、今後の教育方法の改善に役立てる。学生から様々な意見があり、普段、問題意識をもって学業に取り組んでいる姿勢が見受けられた</p> <p>【課題】 (理工学府長と学生との懇談会) オンライン授業の問題点について、スライドを見ながらのため、教員の説明にスピードがついていけない、質問しづらい。大学に来られないとコミュニケーションが出来ない、サークル活動も出来ていない。人との接点が心配等の意見があった。</p> <p>【具体的な改善事例】 令和4年度からは、対面授業を推奨しており、対面授業が増えたことによりいくつかの問題点が解消されつつあると思われる。なお、今後の感染状況によっては、対面授業ではなく、オンライン授業を実施しなければならないこともあるので、引き続き、課題の解決に向けて取り組んでいく。</p>

3. FD活動

(1) 実施状況

学部等	実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	大学教育・学生支援機構 大学教育センター	第13回 全学FD連続講演会 「大学教育のグランドデザイン」	R3.10. 8	266名	大学院改革について、先行する東北大学の取組みについて、東北大学の現執行部による講演を実施（オンライン）
	大学教育・学生支援機構 大学教育センター	令和2年度群馬大学ベストティーチャー賞 公開模擬授業	R3. 8. 5 ～ R3.10.31	183名	学長賞受賞者3名による公開模擬授業を実施（Moodle を利用したオンライン研修）
教育学部 教育学研究科	共同教育学部	令和3年度共同教育学部FD	R3. 6. 3	37名	学習評価「ルーブリック」について、大学教育・学生支援機構教育改革推進室教員による講演に関する講演（オンライン）
	共同教育学部 （オンライン授業実施推進チーム）	オンライン授業FD研修会	R3. 9.28	25名	後期オンライン授業に向けてのFD研修会（オンライン）
	共同教育学部	教育方法に関するFD講演会	R3.12. 9	56名	毎日新聞社「記者トレ」の体験授業（オンライン）
	共同教育学部 （教員養成FDセンター）	附属学校園・公開研究会	R3. 6.25 外	22名	附属小学校における公開研究会（オンライン） 外
	共同教育学部 （教員養成FDセンター）	教育実習 A、C、Dおよび幼稚園教育実習	R3. 9. 9 外	5名	附属中の実習生が行う通常授業への参観 外
	共同教育学部 （教員養成FDセンター）	附属学校園における大学教員の公開授業	R3. 7.15 外	14名	「自分の経験や考えを一般化し、説得力のある意見文を書こう」外
	共同教育学部 （教員養成FDセンター）	附属小学校・提案授業および授業研究会	R3.11.24 外	4名	「すごいぞ日本！プレゼンテーション」外
	教育学研究科 ／群馬県教育委員会	公開シンポジウム「ぐんまの教師力を高める2021」	R3.11.14	20名	教職大学院を修了した現職教員による、課題研究、課題解決実習、およびその後の実践の話題提供、および大

					学院教員と県教委指導主事を交えたシンポジウム（オンライン） （国立大学法人群馬大学と群馬県教育委員会との連携に係る協議会）
	教育学研究科	授業実践開発コースFD	R4. 3. 24	25名	授業実践開発コースにおける学生指導（目標・内容・方法） （オンライン）
	教育学研究科	教職リーダーコースFD	R4. 3. 13	14名	教職リーダーコース修了生による座談会、講座教員（担当教授）による教育講演（オンライン）
	地域連携推進室／教育学研究科	特別支援教育実践開発コースFD	R4. 3. 24	5名	オンライン教育が拓く新しい学びの可能性（群馬大学地域貢献シンポジウム）（オンライン）
情報学部 社会情報学部 社会情報学研究科	教務委員会	ループリックによる学習評価 — 学生の成長のために	視聴期間： R3. 7. 29 ～ 8. 20	54名	「ループリックによる学習評価」について、大学教育・学生支援機構教育改革推進室教員による講演（オンデマンド）
	社会情報学教育・研究センター	新任教員セミナー・シリーズ	R3. 11. 24	36名	令和3年度に着任した新任教員の研究紹介 （オンライン）
			R3. 12. 22	35名	
			R4. 1. 26	22名	
			R4. 3. 9	31名	
医学部 医学科	医学科教務部会	医学教育教授法FD	R4. 2. 19	161名	模擬授業（授業が高評価の教員による）、「新カリキュラムと医学教育」について、各担当教員からの説明と報告
	医学科教務部会	学びのリテラシー・医系の国語表現 FD	R4. 3. 10	14名	科目の在り方や他の科目との連携、課題設定、評価方法について、現況の紹介およびディスカッションを実施

医学部 保健学科 保健学研究科	保健学科 (保健学研究科と合同開催)	第1回 保健学教育 FD	R3. 6. 29	74名	学内講師による「ルーブリックによる学習評価」の講演を実施	
		第2回 保健学教育 FD	R3. 9. 27	71名	ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業を実施	
		第3回 保健学教育 FD	R3. 11. 26	64名	群馬大学国際センター大学院授業英語化推進室主催 FD講演会(兼:保健学研究科 FD)にて各研究科の取組みを紹介	
医学系研究科	医学系研究科 医科学専攻教務委員会・生命医科学専攻教務委員会	医学系研究科 FD (グンマ創発的博士人材インダクションプログラム)	R4. 2. 16	75名	グンマ創発的博士人材インダクションプログラムのご紹介	
保健学研究科	大学院授業英語化推進室	大学院授業英語化推進室主催FD講演会	R3. 11. 26	64名	医学系研究科、保健学研究科の英語化の取組みの紹介	
理工学部 理工学府	大学院授業英語化推進室	授業の英語化に関するFD オンラインセミナー	全7回 R4. 3. 3 R4. 3. 10 R4. 3. 17 R4. 3. 24 R4. 3. 25 R4. 3. 31 R4. 4. 1	57名 (全7回合計)	海外の大学に所属する教員に講師を依頼し、英語による授業の実践やノウハウ、実務に役立つ多様な事例を学ぶとともに、研究者交流の場も提供して教育研究の交流を深める。	
			理工学部	前期公開授業 R3. 6. 14 ～ 7. 16	30名	教員相互の公開授業(アンケート回答者66名)
			理工学部	後期公開授業 R3. 12. 13 ～ R4. 1. 7	14名	教員相互の公開授業(アンケート回答者60名)

(2) FD活動に基づく自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・学生支援機構	<p>【実施概要】 全学FD連続講演会では、重要検討課題である「大学院改革」について、先行する東北大学の取組みについて、東北大学の現執行部による講演が行われた。 またベストティーチャー賞の学長賞受賞者による公開模擬授業についても、群馬大学講習会用Moodleを利用したオンライン研修として実施した。</p> <p>【課題】 全学実施のFDは、全教員に対して原則参加を周知しているが、時間・場</p>

	<p>所の制約もあり、実際には受講できない教員が多いことが、例年の課題となっていた。</p> <p>【具体的な改善事例】 昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、結果的にオンラインでの実施となったこと及び期間を設けて動画を公開したことにより、対面のときよりも飛躍的に受講者数を増やすことができた。(R1 対面実施 65名 → R3 オンライン実施・動画公開 310名)</p>
教育学部 教育学研究科	<p>【実施概要】 附属四校園で行われた研究会や教育実習の授業を参観した教員からは、この活動をとおして、学生にどのような教育をすべきか、また、学校現場が抱える課題に対して自身の専門性を活かした研究課題についても考える機会になった等有意義なものであった旨の回答を得た。 教職リーダーコースでは、2年間の学修、特に課題研究への取組について、修了生2名(2018年3月修了および2020年3月修了)と、担当教授との3人による懇談形式での座談会が行われた。引き続き、群馬県内の教育行政の現状と課題について、担当教授より報告があり、勤務校での課題研究の課題点等について参加者全員で検討した。授業実践開発コースでは、コース内の学生指導について、講座間で情報共有を行った。特別支援教育実践開発コースでは、特別支援教育の内容がテーマでもあった地域貢献シンポジウムに、教員と院生が参加したFD活動を行った。</p> <p>【課題】 教職大学院における3コース共通のFDの機会がないことが課題。</p> <p>【具体的な改善事例】 3コース共通のFDについては、研究科教務委員会で検討課題とした。</p>
情報学部 社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【実施概要】 「ルーブリックによる学習評価」については、大学教育・学生支援機構教育改革推進室教員による講演をオンデマンドで実施したことから、教務係からリマインドメールを送信することで、全教員が視聴した。 他方、「新任教員セミナー」については、令和3年度に情報学部に着任した新任教員による研究報告及び意見交換を、授業終了後の夕方にオンラインで複数回にわたり実施したことから、多くの教員が参加し、講義の手法等についての見聞を広げ、教育の質向上や授業の改善に結びついた。</p> <p>【課題】 「新任教員セミナー」は、オンラインで参加しやすくなったとは言え、リアルタイムで実施されることから、各回に全ての教員が参加することはできなかった。</p> <p>【具体的な改善事例】 「新任教員セミナー」は、教員が参加しやすいように、今後もオンラインで複数回の開催を継続する予定である。また、教員への周知はできるだけ早期に行うこととする。著作権及び特許等の問題がなければ、オンデマンドにて視聴期間を限定して公開することについても検討する。</p>
医学部 医学科	<p>【実施概要】 授業評価が高評価だった教員に授業や教材の工夫を紹介してもらい、またその教員の模擬授業を視聴することで、他の教員の授業改善につながるなどの意見が得られた。特にオンラインでの授業の工夫について、具体例を供</p>

	<p>覧することができた。また、学年進行で導入している新カリキュラムについて、特にカリキュラムが変わる3年次科目を中心に情報を提供した。医師法の改正に基づき4年次の共用試験が公的化されることについても情報を共有することができた。医系の国語表現FDでは、令和3年度の振り返りを行い、同じ1年生科目の「学びのリテラシー（1）」と学生の学びの状況について情報を交換した。令和4年度に向けて教材や課題、評価についてディスカッションも行った。</p>
	<p>【課題】 新カリキュラムの実施についての質問が多くあったことから、継続的に情報提供をしていく必要がある。特に令和4年度は臨床実習に新カリキュラムが導入されることから、学外施設も含めてFDを実施し教育の方法や評価について十分に情報を提供していく必要がある。合わせて、医師法改正に伴い令和5年度から公的化される4年生の共用試験CBT、臨床実習前OSCEについても教職員間で十分な情報共有と実施体制の構築が必要である。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 昨年度課題として挙げられたオンラインにおける教育方法に関する教員への情報提供について、今年度のFDでも継続実現することができた。また、昨年度のもう1つの課題としてあげられた医系の国語表現FDについて継続実施することができた。担当教員数が増えたことから今後も定期的にFDを開催して教材や課題、評価についてしっかりと共有していく必要がある。</p>
<p>医学部 保健学科 保健学研究科</p>	<p>【実施概要】 第1回保健学教育FDでは、学内講師による「ルーブリックによる学習評価」の講演を実施し、学生に対する成績評価について理解を深めた。（教員参加率 98.7%（75人中74人が参加）） 第2回保健学教育FDでは、各授業担当教員の教育方法の工夫や改善を促し、自らの教育に対する質保証の主体としての自覚を高めるため、ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業を実施した。（教員参加率 95.9%（74人中71人が参加）） 第3回保健学教育FDでは、各研究科における授業の英語化推進の取り組みの紹介をし、英語での授業の必要性等に対する理解を深めた。</p>
	<p>【課題】 教育課程専門委員会においてFDの実施状況が報告され、各専攻において社会の変化に連動するニーズにあわせて教育方法を工夫する等、継続的に授業の改善に取り組むことが確認された。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 FDの内容を踏まえ、各教員が授業方法の工夫、内容成績の改善及び成績評価を付ける際の改善に主体的に取り組んでいる。</p>
<p>医学系研究科</p>	<p>【実施概要】 コロナ禍のため、Zoomによるオンライン開催とした。オンラインによる開催であったこともあってか、医学系研究科教員75名の出席があった。医療関係の電子情報管理やEIN活用による研究におけるDX事例等を通じた要点や課題等、今後の大学院教育に有益な情報が得られた。</p>
	<p>【課題】 従前は時間・場所の制約もあり、実際には参加できない教員がいる現状であった。</p>

	<p>【具体的な改善事例】 Zoom によるオンライン開催となったことにより、参加しやすい環境を整えることが出来た。</p>
保健学研究科	<p>【実施概要】 国際センター大学院授業英語化推進室主催の FD 講演会に保健学研究科の FD を兼ねる開催とした。オンラインでの開催であったため、当日欠席でも後日録画を視聴することにより、保健学研究科教員の約 85% (75 名中 64 名) の参加となった。医学系研究科、保健学研究科のそれぞれの取り組みや指導上の工夫等を共有し、留学生からの発表も行ってもらったなど、今後の英語化に有益な情報が得られた。</p>
	<p>【課題】 参加者数の把握のため Google Form に入力してもらったが、回答のない教員もいた。Zoom のレポートでも確認したが、氏名が記載されていないアカウントが見られ、正しい参加者数の把握が困難であった。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 オンラインで開催する際にはアカウント名に氏名を記載してもらうこと、またチャットで出席を確認するなど、正確に把握できるよう工夫する。</p>
理工学部 理工学府	<p>【実施概要】 前回同様、Zoom を活用するなどして実施した。公開授業に参加した教員が前期は 30 名、後期は 14 名と後期の参加者が少なかった。</p>
	<p>【課題】 公開授業について参加者が少ない。業務が多忙で参加できない理由がアンケートから見受けられる。(アンケート結果では公開授業は、有益との意見が毎年一定数存在する)</p>
	<p>【具体的な改善事例】 公開授業について、教員が参加しやすいように期間を長く設定する。</p>

4. 学生等への意見調査 (在学生、卒業(修了)生、就職先及び保護者など)

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	対象者・人数	内容
大学教育・ 学生支援機構	全学卒業時 アンケート	R3. 12 ～ R4. 3	令和4年3月 卒業生 581名 (前年度 675名)	学部卒業生を対象にした、学生生活、教養教育科目等についてのアンケート調査(オンライン)
	全学修了時 アンケート	R3. 12 ～ R4. 3	令和4年3月 修了者 245名 (前年度 281名)	大学院修了生を対象にした、研究環境や進路選択の支援等についてのアンケート調査(オンライン)
	全学学習ふりかえり アンケート	R3. 12 ～ R4. 3	学部生(卒業年次以外) 1,511名 (前年度 1,577名)	卒業年次以外の学部生を対象にした、1年間の学習内容についてのアンケート調査(オンライン)
	就職先機関 アンケート	R3. 9 ～ R3. 11	対象機関 1578機関のうち 606機関 回答	過去3年間(平成30年度から令和2年度)の卒業(修了)生の就職先機関を対象にしたアンケート調査(郵送)
	卒業(修了)生 インタビュー	R3. 10 ～ R3. 11	ランダムに抽出した対象者 160名のうち 45名 回答	過去3年間(平成30年度から令和2年度)の卒業(修了)生を対象にしたインタビュー調査(オンライン)
共同教育学部 教育学研究科	教育実習A及びB に関するアンケート	R3. 11	学部3年生 224名	教育実習の充実度に関するアンケート
	教育に関する現況 調査アンケート (教職リーダーコース)	R4. 2	教職リーダーコース M2院生 7名	教職大学院の教育についての充実度に関するアンケート(教職リーダーコース)
	課題研究報告会オー ディエンス・ア ンケート(教職リ ーダーコース)	R4. 2	報告会参加者・有 効回答数 48名	教職リーダーコース 課題研究報告会の報告内容に関するアンケート
	課題研究中間発表 会アンケート(教 職リーダーコース)	R3. 8 R4. 2	報告会参加者・有 効回答数 38名	M1による中間発表会 に関するアンケート
	課題研究レビュー 報告会(授業実践 開発コース)	R3. 8	報告会参加者・有 効回答数 13名	M1による課題研究レ ビュー検討会に関するアンケート
	課題研究計画検討 会(授業実践開発 コース)	R4. 2	検討会参加者・有 効回答数 12名	M1による課題研究計 画検討会に関するアンケート
	課題研究報告会	R4. 2	報告会参加者・有	M2による課題研究報

	(授業実践開発コース)		効回答数 67名	告会に関するアンケート
	課題研究中間発表会アンケート(特別支援教育実践開発コース)	R3. 8 R4. 2	報告会参加者・有効回答数 15名	M1による中間発表会に関するアンケート
	課題研究報告会アンケート(特別支援教育実践開発コース)	R4. 2	報告会参加者・有効回答数 17名	M2による課題研究報告会に関するアンケート
社会情報学部 社会情報学研究科	卒業時アンケート	R4. 2.18 ～ 3.13	122名	学部生としての活動を総括するアンケートを実施
	修了時アンケート(教育評価アンケート)	R4. 2.19	2名	院生としての活動を総括するアンケートを実施
医学部 医学科	令和3年度医学科卒業時アンケート	R3.10.29	6年生 107名	学部独自の調査項目をカリキュラム評価委員会が設定し、6年次生を対象にカリキュラムや学生生活に関する満足度等を調査
医学部 保健学科	卒業時アンケート	R3.12.	90名	今後における教育・学生支援の充実のため、卒業予定者を対象に実施
医学系研究科	重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム修了生及び就職先へのアンケート	R4.2～3	令和2年度 修了生 3名 就職先担当者3名	重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム修了生及び就職先へのアンケート
保健学研究科	全学修了時アンケート調査	R3.12.15 ～ 3.31	保健学研究科 修了者 32名	大学院での研究、カリキュラムに関するアンケート調査
理工学部 理工学府	理工学部における卒業時アンケート調査	R4. 1.17 ～ 3.23	学部4年次 (529名) 回答数 (382名)	授業科目や課程に関する意見や満足度、進学先等
	令和3年度修了時アンケート調査【理工学府博士前期(修士)課程】	R4. 1. 4 ～ 3.31	大学院(博士前期) 2年次 (353名) 回答数 (173名)	カリキュラムや研究に関する意見及び満足度、進路等
	令和3年度修了時アンケート調査【理工学府博士後期課程】	R4. 1. 4 ～ 3.31	大学院(博士後期) 3年次 (44名) 回答数 (10名)	カリキュラムや研究に関する意見及び満足度、進路等

(2) 意見調査に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・ 学生支援機構	<p>【実施概要】 昨年同様に、学部の「卒業時アンケート」、大学院の「修了時アンケート」及び卒業年次以外の学部生を対象とした「学習ふりかえりアンケート」について、教務システムのアンケート機能を利用してWEBアンケートを実施した。 また3年に一度実施することとしている「就職先機関アンケート」の2回目を実施したほか、「卒業（修了）生インタビュー」を新たに実施した。</p> <p>【課題】 オンラインで実施しているアンケートについては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、学生への周知機会が減少していることから、いずれのアンケートも回答数が昨年より減少した。学生を対象としたオンラインアンケートが増加傾向にあるため、学生の負担軽減と、回収率の向上が継続課題である。 「卒業（修了）生」への意見聴取については、大学が学生の卒業後の連絡先を直接把握できていないため、就職先企業に取り次ぎを依頼することになり、効率がよいやり方とはいえなかった。</p> <p>【具体的な改善事例】 アンケート回答期限の1週間前に、対象学生に対して教務システムから回答依頼のメッセージを送信しているが、回答率が上がらないため、依頼時等の複数回、メッセージ送信を行う予定である。 令和3年度卒業生から、卒業（修了）時に、卒業後の連絡先について登録するよう依頼した。今後毎年度データを蓄積し、次回令和6年度実施の際には、活用の予定である。</p>
共同教育学部 教育学研究科	<p>【実施概要】 実習の充実度、実習期間の設定、実習A（基礎実習）における経験をB実習（応用実習）へ活用できたかについて、おおむね9割の学生が肯定的な評価をしている。また、実習校への割り振りの満足度はおおむね8割の学生が肯定的な評価をしている。 課題研究報告会については、3コースそれぞれ別日程で、いずれもオンラインで開催された。他コースの院生や教員、外部の参加者も一定数見られた。</p> <p>【課題】 全体の割合に比べればわずかであるが、実習期間設定と実習校の割り振りについては満足度が低いとする学生がいる。関連し、実習を受け入れる学校について、様々な理由から実習人数を縮小する学校が出てきていることも事実である。 課題研究報告会（教職リーダーコース）については、「教育現場の課題を研究している」「各項の課題を的確にとらえている」「個人ではなく、同僚教員や外部機関との連携が出来ている」「他の地域や学校にも活かせる内容である」「院生の組織運営能力の高まりが分かる」といった指摘がなされた一方で、「リーダーコースの研究における検証とは何か、考える必要がある」といった指摘もなされた。また、「チャットへの質問入力に戸惑った」「院生同士の質疑応答がもっとあると良い」「他コースからの参加をもっと増やしたい」という課題も指摘された。</p> <p>【具体的な改善事例】 実習期間等については、各実習校や教育委員会との調整が必要となるため、引き続き教育実習委員会において検討を続ける。</p>

	<p>課題研究報告会の進め方については、研究科教務委員会の検討事項としたい。</p>
<p>社会情報学部 社会情報学研究科</p>	<p>【実施概要】 学部卒業時アンケートにおける「群馬大学社会情報学部でのあなたの学生生活は、充実していましたか」との質問に対し、「とても充実」「充実」と回答した者は 91.7%であった。研究科修了時アンケートでのそれは 100%であった。 学部・研究科ともに、学生は学生生活に満足し、高く評価していることが伺われた。</p> <p>【課題】 大学院進学情報の提供について「あまり行われていなかった」「ほとんど行われていなかった」「わからない」と答えた回答者が、55.0%であった。</p> <p>【具体的な改善事例】 例年、年度初めに実施している2～4年生の各履修ガイダンスで、学務委員長から大学院についての説明を行っているほか、入試説明会のホームページ掲載や、3、4年生へは教務システムのメッセージから案内通知を送信しているが、本学部生の大学院進学率は1%未満であることから、特に必要のない情報として認識されていると思われる。今後は、教務システムのお知らせへの掲載や、入試説明会ポスターの学内掲示を行い、大学院の情報が学生の目に触れる機会を増やしていく。</p>
<p>医学部 医学科</p>	<p>【実施概要】 対象学年が全員対面で出席する医師国家試験説明会の際にアンケート用紙を用いて実施・回収した。調査カテゴリは「学習・生活支援等」「施設」「カリキュラム」「達成度・アウトカム」であり、継続して傾向をみるために昨年度と同じ調査項目を用いた。 回収率は99%であった。いずれのカテゴリも満足・やや満足（または達成度）が80～96%と高い満足度が得られていた。各カテゴリの分析では、「学習・支援等」カテゴリにおいては就職指導、教務システム、履修、成績のアドバイスで不満を訴える学生が多かった。「カリキュラム」カテゴリにおいては低学年での実習、の満足度が87%と低い傾向にあった。特に重要な「達成度・アウトカム」カテゴリについては本学科の8つのアウトカムのいずれにおいても「充分」「おおむね充分」という回答が94%以上あり、高い達成度評価が得られた。</p> <p>【課題】 満足度の低かった履修、成績のアドバイスについては、アンケート対象の卒業学年においてオンライン授業の割合が高かったことから、教員を気軽に訪ねる機会の減少が一因であると考えられる。特に成績下位者への学修面談の実施が十分でなかった可能性がある。令和4年度はより広い範囲の学生を対象に学修面談を実施する等の手だてが必要であると考えられる。</p> <p>【具体的な改善事例】 昨年度も課題としてあげられた低学年での病院実習については、新カリキュラム導入の際に見直しを行い、事前学習や日程について変更を行った（2020年度入学生より）。 同じく昨年度課題としてあげられた自習スペースの利用制限については、新型コロナウイルスワクチンの接種が進んだことから、令和3年度は6年生を対象に自習スペースの開放を再開した。</p>

<p>医学部 保健学科</p>	<p>【実施概要】 平成 29 年度から全学の卒業時アンケートを実施することになったため、同年度から保健学科独自の卒業時アンケートも実施している。 保健学科の学習により身につけた項目を問う質問においては、「保健医療者に必要な知識と技術」「人間の尊厳を尊ぶ心」「将来にむけて、意欲を持って自らを向上させる力（自己開発力）」「チーム医療の担い手として、他者との相互理解や協働関係の構築ができる力」「医療が直面するいろいろな課題に対して、様々な立場・視点から柔軟に考え、判断し、対応するための基礎的な能力」は、「充分身につけた」及び「概ね身につけた」の合計で、それぞれ 8 割を超えていたことから、学生の目標は概ね達成しているものと判断できる。</p> <p>【課題】 「保健学科で得たものは何ですか。」との質問事項において、「理論的思考能力」及び「表現力・プレゼンテーション能力」は得たものに該当しないとの回答が多かったことから、これらの能力をどのように伸ばしていくかが課題になっている。</p> <p>【具体的な改善事例】 教育課程専門委員会においてアンケート結果が共有され、「理論的思考能力」及び「表現力・プレゼンテーション能力」は保健学科で得たものに該当しないとの回答が多かったことから、各教員がこれらの能力を高められるような授業を行えるよう、改善に取り組んで行くことで認識が共有された。</p>
<p>医学系研究科</p>	<p>【実施概要】 重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム令和 2 年度修了生 3 名と令和 2 年度修了生の就職先担当者 3 名へアンケートを行った。全ての修了生が、シンポジウムやインターンシップ先で人的ネットワークを構築できたと回答しており、プログラムに満足していると回答した。また、就職先へのアンケートでは、身につけている能力として 66%以上が「問題解決能力」「協調性」と回答があった。 修了生アンケートでは、学んでおくべき能力やスキルとして「発表する能力」が必要と考えている修了生がいたことが分かった。また、就職先アンケートでは、自主性や自己アピールなど自分を表現する力が高められるとよいと感じている就職先があることが分かった。</p> <p>【課題】 特になし</p> <p>【具体的な改善事例】 特になし</p>
<p>保健学研究科</p>	<p>【実施概要】 「研究について、相談にのったり支援したりしてくれる人がいた」「指導教員とのコミュニケーションに満足している」について「とても当てはまる」「まあまあ当てはまる」の割合は 97%（32 人中 31 人）、「教員の指導に基づきながらも、自主性を尊重されて研究を進められた」は 100%が「とても当てはまる」「まあまあ当てはまる」と回答しており、指導教員の指導や研究についての満足度が高い。</p> <p>【課題】 昨年度に引き続き、教育ポリシーについては理解度が低く、「入学時に教育ポリシーを知っていたか」の問いに 32 人中 17 人が「あまり知らなかつ</p>

	<p>た」「まったく知らなかった」と回答していた。</p> <p>また、入学を決めた理由について「将来就きたい職業につながること」「就職の実績がよいこと」と回答した学生が少なく、本研究科を修了することが職業につながると感じている学生の比率が低い。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>改訂を行った教育ポリシーを早急に保健学研究科ホームページへ掲載する。英訳についても検討する。</p> <p>本研究科へ入学する学生の中には大学教員を目指す者も多いため、令和4年度に教育に関する科目「医療人のための教育学Ⅰ・Ⅱ」を新設し、受講を促す。</p>
<p>理工学部 理工学府</p>	<p>【実施概要】</p> <p>卒業生からの声を今後の理工学部の運営に反映させるため、毎年アンケート調査を実施している。</p> <p>理工学部アンケート調査における卒業後の進路について、企業への就職が38.32%、大学院等の進学が55.12%と全体の半数が大学院へ進学をしている。卒業研究を行ったことが技術者、研究者としての生き方や考え方、問題解決への意欲などに良い影響を与えているかの設問については、92.82%が与えていると回答があり、役立っていることが伺える。教務システムのポートフォリオを役立たせることができたかの設問では、78.7%ができていないと回答した。</p> <p>【課題】</p> <p>教務システムのポートフォリオを役立てていない学生がいるので活用を促す。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>ポートフォリオの役割、メリット等、学生に理解してもらうよう具体的な活用例を示して、教務システムから学生に周知する。 (参考：役割等)</p> <p>学生と教員が学習の到達点や、これからの課題をともに確認し、共有し、教員から助言をもらいながら学修成果を可視化して問題把握を行うことにより、何をしないといけないのか認識できる。</p> <p>学生生活で何をしたいのか、卒業後の将来の夢など目標を明確にすることにより、自己評価しながら、振り返り、目標達成につなげる働きがある。</p>

5. 学外者の意見や第三者評価等の結果の活用

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	概要
大学教育・ 学生支援機構	該当なし		
共同教育学部 教育学研究科	教育実習 A、C、D 運営 協議会、教育実習 B 運 営協議会	—	教育実習前の意見交換（教育委員 会、実習校） ※例年 7 月に実施している本協議 会について、コロナ禍のため中止
	教育実習 A、C、D 研究 協議会	R3. 12. 1	教育実習後の意見交換 （教育委員会、実習校）
	教育実習 B 研究協議会	R3. 12. 1	教育実習に関する意見交換 （教育委員会、実習校）
	教職大学院教育課程連 携協議会	R4. 2. 25	教職大学院における教育課程に関 する意見交換（教育委員会、公立 学校長、公立学校教諭等）
情報学部 社会情報学部 社会情報学研究科	該当なし		
医学部 医学科	カリキュラム 評価委員会	R3. 6. 29 R3. 8. 31 R4. 3. 7	他大学教員、群馬県関係者を外部 委員に委嘱し、委員会で情報共有 や意見交換を行っている
医学部 保健学科	該当なし		
医学系研究科	該当なし		
保健学研究科	該当なし		
理工学部 理工学府	学外委員による 外部評価委員会	(第 1 回) R3. 10. 27 (第 2 回) R3. 12. 22	学外の委員（企業、大学、高専な ど）によるカリキュラム等に対す る評価・意見交換。R3 年度も、R2 年度につづきコロナ対策のため外 部評価委員による実地見学を行わ ず配布資料に基づくオンライン会 議とした。(機械知能システム理工 学科)

(2) 意見等に基づく 改善事例

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
教育学部 教育学研究科	<p>【意見・指摘事項等】</p> <p>実習生を受け入れた際のことについて、実習校から、実習生の授業の進め方や生徒指導等について、それぞれ意見・感想が述べられた。</p> <p>教職大学院教育課程連携協議会では、各コースからカリキュラムや院生指導の状況についての概要説明があった後、教職大学院の教育課程の全般について、意見交換が行われた。</p>
	<p>【具体的な改善事例】</p> <p>実習校からの意見を、教育実習委員会において検討し、実習方法等の見直しや学生への指導を行う上での参考とした。</p> <p>教職大学院連携協議会を改組前から継続して開催していたが、改組後は</p>

	<p>コースごとに異なった形式の実習が行われること、例年欠席（不参加）の学校もあり、その場合は学校に出向いて改めて説明する必要があることなどにより、全体では開催しないこととし、大学院実習委員会で基本的な協議の方針や内容を定め、それを踏まえて実習校ごとに、実習校指導教員と大学院の指導教員とが個別に協議を行うこととした。</p>
医学部 医学科	<p>【意見・指摘事項等】</p> <p>臨床実習において、履修した学生からの各診療科の実習プログラムの評価を実施し、診療科にフィードバックしていることについて次の意見をいただいた。①高い評価を得た診療科がどのような点を評価されたのか具体的な意見を聴取するためには、自由記述欄への工夫が必要である。②良い事例は全ての診療科に共有すると、実習内容の見直しにつなげやすい。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>昨年度、外部委員から使命や教育ポリシーの定期的な見直しの必要性を指摘されていたところであるが、令和3年度に教育ポリシーの見直しを実施することができた。</p>
理工学部 理工学府	<p>【意見・指摘事項等】</p> <p>カリキュラムや講義内容に対して意見をいただき、コロナ禍における人材育成について提案があった。オンライン授業に対する助言・批判・改善提案など多数にわたる。また改組カリキュラムの説明とそれに対する意見・助言を頂いた。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>継続されるであろうオンライン授業改善に向けた参考とし、継続的な教育改善に活かした。 また新カリキュラム完成へ向けた参考とし、継続的な教育改善に活かした。</p>

6. その他 特記事項

特になし

7. 根拠資料

(「授業評価のアンケート用紙、集計結果」、「学生との懇談会の配付資料・記録」、「FD活動の資料」、「意見調査票、集計結果」等)

学部等	根拠資料
大学教育・ 学生支援機構	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和3年度前期 授業評価（学びのリテラシー1）集計表 2. 令和3年度前期 授業評価（データ・サイエンス）集計表 3. 令和3年度後期 授業評価（学びのリテラシー2）集計表 4. 令和3年度後期 授業評価（データ・サイエンス）集計表 5. 令和3年度 学長と学生との懇談会次第 6. 第13回 全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」開催案内 7. 令和2年度ベストティーチャー賞「学長賞受賞者による公開模擬授業」実施通知 8. 令和3年度 卒業時アンケート 集計表 9. 令和3年度 修了業時アンケート 集計表 10. 令和3年度 学習ふりかえりアンケート 集計表 ※自由記述なし 11. 令和3年度 群馬大学卒業（修了）生就職先機関アンケート 結果概要 ※自由記述なし 12. 令和3年度 卒業（修了）生インタビュー調査 結果概要
共同教育学部 教育学研究科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和3年度 前期・後期 授業評価アンケート 集計結果 2. 令和3年度 前期 授業評価アンケート WEB画面 3. 令和3年度 前期 授業改善報告書 様式 4. 授業評価アンケート結果に基づく授業改善（教員対象）集計結果 5. 教職リーダーコース 授業改善報告書 回答結果 6. 令和3年度 学部長との懇談会 要望・意見・質問まとめ 7. 教職リーダーコース 大学院生と教員との懇談会 報告 8. 教職リーダーコース FDに関する公開（ウェブページ抜粋） 9. 教職リーダーコース FD院生座談会 資料 10. 令和3年度「教育実習AおよびB」に関するアンケート 集計結果 11. 教職リーダーコース 「教育に関する現況調査アンケート」報告書 （自由記述付） 12. 教職リーダーコース M2 課題研究報告会 アンケート 集計結果 13. 教職リーダーコース M1 課題研究中間報告会 アンケート 集計結果 14. 教職リーダーコース M1 課題研究中間報告会（2）アンケート 集計結果 15. 授業実践開発コース 検討会・報告会 まとめ 16. 授業実践開発コース 課題研究計画検討会 参加者アンケート 集計結果 17. 授業実践開発コース 課題研究報告会 参加者アンケート 集計結果 18. 特別支援教育実践開発コース 課題研究中間発表会 参加者アンケート 集計結果 19. 特別支援教育実践開発コース 課題研究報告会 参加者アンケート 集計 結果
情報学部	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和3年度 前期・後期 授業評価アンケート 集計結果（情報学部） 2. 令和3年度 学部長と学部生との懇談会 案内・記録 3. 情報学部FD「ルーブリックによる学習評価 ― 学生の成長のために」 実施通知・資料 4. 情報学部FD「新任教員セミナー・シリーズ」実施一覧
社会情報学部 社会情報学研究科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和3年度前期・後期 授業評価アンケート 集計結果（社会情報学部） 2. 令和3年度前期・後期 授業評価アンケート 集計結果（社会情報学研究 科） 3. 令和3年度 学部長と学部生との懇談会 案内・記録

	<ul style="list-style-type: none"> 4. 令和3年度 研究科長との懇談会 案内・記録 5. 情報学部FD「ループリックによる学習評価 ― 学生の成長のために」実施通知・資料 6. 情報学部FD「新任教員セミナー・シリーズ」実施一覧 7. 令和3年度 社会情報学部 卒業時アンケート 集計結果 8. 令和3年度 社会情報学研究科 教育評価アンケート 集計結果
医学部 医学科	<ul style="list-style-type: none"> 1. 臨床実習（必修）実習内容に対する評価（評価者：医学生）回答フォーム 2. 令和3年度 医学教育教授法FD 次第 3. 令和3年度 医学部医学科 学びのリテラシー・医系の国語表現 FD 次第 4. 令和3年度 医学科卒業時アンケート 結果概要 5. 令和3年度 第1回カリキュラム評価委員会 次第 6. 令和3年度 第2回カリキュラム評価委員会 次第 7. 令和3年度 第3回カリキュラム評価委員会 次第
医学部 保健学科	<ul style="list-style-type: none"> 1. 令和3年度 保健学科前期授業評価アンケート 集計結果 2. 令和3年度 保健学科後期授業評価アンケート 集計結果 3. 群馬大学医学部保健学科学友会との懇談会 資料 4. 令和3年度 保健学教育FD 次第・出席状況 5. 令和3年度 群馬大学医学部保健学科 卒業予定者アンケート集計結果
医学系研究科	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2021年度 医学系研究科 授業評価アンケート（前期）集計結果 2. 2021年度 医学系研究科 授業評価アンケート（後期）集計結果 3. 群馬大学大学院医学系研究科FD 次第 4. 重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム 修了生へのアンケート回答（対象：令和2年度修了生）集計結果 5. 重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム 就職先へのアンケート回答（対象：令和2年度修了生）集計結果
保健学研究科	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2021年度 保健学研究科 博士前期課程 授業評価アンケート（看護学）集計結果 2. 2021年度 保健学研究科 博士前期課程 授業評価アンケート（生体情報検査科学）集計結果 3. 2021年度 保健学研究科 博士前期課程 授業評価アンケート（リハビリテーション学）集計結果 4. 令和3年度 保健学研究科懇談会 議事録 5. 令和3年度 保健学研究科懇談会 院生参加者名簿（氏名等削除） 6. 大学院授業英語化推進室主催 FD講演会 次第
理工学部 理工学府	<ul style="list-style-type: none"> 1. 令和3年度 理工学部授業改善のためのアンケート（最終調査）設問・結果票 2. 令和3年度 理工学府授業改善のためのアンケート（最終調査）設問・結果票 3. 令和3年度 理工学府長と学生との懇談会 次第・記録 4. 授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会 記録 5. 授業の英語化に関するFD オンラインセミナー 案内・参加申込数 6. 2021年度前期 理工学府・理工学部 公開授業に関するアンケート 集計結果 7. 2021年度後期 理工学府・理工学部 公開授業に関するアンケート 集計結果 8. 令和3年度 卒業時アンケート調査（理工学部）集計結果 9. 令和3年度 修了時アンケート調査（理工学府博士前期課程）集計結果 10. 令和3年度 修了時アンケート調査（理工学府博士後期課程）集計結果

令和3年度 授業評価 実施状況一覧

		合 計		内 訳			
				前 期		後 期	
		実施科目(題目)	アンケート回収数	実施科目(題目)	アンケート回収数	実施科目(題目)	アンケート回収数
教養教育科目	学びのリテラシー	70	1,794	23	962	47	832
	データ・サイエンス	24	912	20	809	4	103
	小 計	94	2,706	43	1,771	51	935
専門教育科目	共同教育学部	941	5,106	480	3,194	461	1,912
	情報学部	23	1,671	12	1,001	11	670
	社会情報学部	178	1,921	71	1,361	107	560
	医学部医学科	4	1,713	2	791	2	922
	医学部保健学科	288	7,061	157	4,455	131	2,606
	理工学部	432	12,177	207	7,103	225	5,074
	小 計	1,866	29,649	929	17,905	937	11,744
大 学 院	教育学研究科	143	338	69	190	74	148
	社会情報学研究科	44	134	24	62	20	72
	医学系研究科	59	136	26	55	33	81
	保健学研究科	3	29	3	29	—	—
	理工学府	110	935	58	642	52	293
	小 計	359	1,572	180	978	179	594
合 計		2,319 (2,197)	33,927 (32,910)	1,152 (1,005)	20,654 (20,114)	1,167 (1,192)	13,273 (12,796)

※ () 書きは、昨年度の実績。